

## 初めての少年鑑別所訪問

9/20/2015

北村社会福祉士事務所

代表 北村弘之

私が所属しています、神奈川県社会福祉士会の研修で、横浜少年鑑別所を訪問しました。

「鑑別」という言葉は、よいことと悪いことを分別するという何か独特なイメージがありましたが、当日の所長の説明を聞いて納得しました。鑑別とは、非行を犯した少年を一時収容し、その心身の状態を科学的方法で調査・診断し、非行の原因を解明して、その後の処遇方針を役立てることにあるというのです。

ここでいう、科学的方法とは医学、心理学、社会学、教育学などの専門的知識及び技術です。そのため、医師をはじめ心理学等の専門官が配置されており、特に心理テストでは長年の実績があり、一般市民の相談窓口として、非行・素行不良、いじめ・引きこもり、自分の性格調査などさまざまな悩みごとの相談に対応しているとのことでした。今年度から「よこはま法務少年支援センター」という名称に変更しています。

右の図は、非行を犯した少年の流れです。

非行少年の場合、家庭裁判所の観護措置により、少年鑑別所に送致され、約4週間にわたり先ほどの科学的な手法で原因の解明が行われ、その後の処遇方針が示され、その結果は鑑別結果通知書として、家庭裁判所に送付され、審判や少年院・保護観察所での指導・援助に活用されるというわけです。

最近の非行例では、「オレオレ詐欺」の手先になった少年などが目立ち、30年前の暴走族やシンナーとの関わりの多かった時代とは大きく変わります。また、母子家庭での非行が目立つようです。昨年度の入所数は、671名とH22年の1,135名に比べると減少傾向にあるとのこと。ここにも、少子化の影響があるようです。

横浜鑑別所は定員130名(男104名、女26名)ということでしたが、当日の見学では、女性の一時収容がないため、「個室」を見ることができました。3畳ほどの畳部屋にトイレとテレビがついており、以前見学に訪れた横浜刑務所の個室と同じようなイメージでした。また最近是人権を尊重し、所内で着る洋服なども、何種類もあり、また私服でもよくなったとのこと。また見学時には、屋外で職員とキャッチボールをしている少年とも遇いましたが、野球好きのような少年でいったい何を犯したのかと思ってしまいました。

鑑別所で力を入れていることは、「自分の問題への気づき」ということです。これまで過ごしてきた家庭生活の中での境遇に問題があるのか、また交友関係なのか、いろいろと専門官と話をしながら今後の処遇に活かしているようです。専門官が言われていたのは、「少年の話をよく聴き、信頼関係を築くことが第一で、少年からは真剣に聴いてくれたこと、またときには叱ってくれたことが感謝されている」とのことでした。

今回の見学を通して、社会復帰できる「気持ちの再建づくり」の大切さを感じました。 以上

